

天 堂 星

この星は人生にたとえますと、老年期を迎えた時代、それが天堂星の世界なのです。

効成り名を遂げた者たちが、一步退いて次の世代に位を譲る時間世界ともいえます。この世代の者をして老人・隠居などと呼ぶのですが、自分に課せられた役目も終わり心静かに世生をたのしむ姿が天堂星世界の姿です。

そこに存在するものは一種の悟りであり、諦めであるかも知れません。

物静かな中に鍛えられた理性と知性を持ち、自ら行動を起こすことはありません。そして、人生の進み方は粘り強く常に一定の速度で変化させる事はないのです。

また大衆のなかに入っても自分からの発言を避けるのが天堂星の性情特色ですが、促されて発言する場合にも全体的なバランスにのっとった意見を発するのです。

この全体的バランスは天堂星がもつ特色の一つですが、とりもなおさず精神理論によるバランスなのです。

また、天堂星世界には身は現実面にあって心の中では精神面的なものを追い求める習性があり、常に精神向上を計ろうとするのです。

そのため完全な悟りを開けないという悩みある世界なのです。

天 堂 星 中 殺

常に精神面を大切にする天堂星世界が、宿命中殺にあるときは、老年期になってから、非常に不安定な人生を歩むのです。

この不安定というのは、物質的…というよりも、いわば精神的なものが主であるために、おだやかに落ち着いて、年を取ることが出来ないで、俗にいう「福・禄・寿・官・印」の「福」がないわけです。このように福(精神安定)が消えてゆくという現象がおこるのです。

(それは、たとえいま幸福の絶頂にいても、絶えず不安と焦りでおちつきがありません。何かと神経質になるため、たとえば、友人のちょっとした言葉が頭から離れず、仕事や勉強が全く身に入らなかったりします。しかし、天胡星のように、ノイローゼにまで陥るというケースはごく稀です。)

それでなくても、天堂星は、若い頃から、自分の余生は、心静かに老境を楽しみ、鳥や動物と楽しみ、植木の手入れに、また花に語りかけ、音楽・絵画のどの芸術面…にと願う心とはうらはらの、落ち着く事のない老境を迎えるという異常な現象にゆきあたるのです。

また天堂星中殺の人は、考え方に一貫性がなくなるのも特徴です。(あなたの周囲に、一人や二人、必ずといって良いくらいいい加減な人がいるはずですが、天堂中殺の人とはそんなタイプの人と思えばいいのです。ごく些細な事を大袈裟に考えてしまうため、いつも心が動揺し、ますます一貫性に欠けた人になってしまうのです。このような傾向は一生続いて出て来ます。そのため天堂中殺の人は、人生のおける心の安定期というものが得られないのです。言葉をかえて申しますと、天堂中殺の人は、一生不安定な精神状態で暮らしていかなければならず、一業に徹する集中力や情熱に欠けるような人……なのです)

天堂星中殺の人は、孤独な日々をおくることが運命づけられています。友人はもとより、身内ともあまり口をきかず、職場などでもざっくばらんに人と談笑するようなことは滅多にありません。この孤独は、天堂星の性格なのでどうしてもありませんが、その用心深さが中殺により、一層強調されるために出て来たものですが、さらに少々の事では人を信用しない性癖もつくりあげてしまうのです。人を信用せず、ただひたすらお金を貯めるようなタイプには、この天堂星中殺が意外に多いのです。